

【灯】 「ねずみの耳」

<2022/11/21 大分合同新聞掲載>

10年ほど前の話になりますが、長女がまだ小さかった頃に、はめ込み型の日本地図パズルを買ってきて、よく一緒に遊びました。各都道府県の形と大きさを模したピースと台が用意されており、大人でも結構楽しめました。ただ、子どもというのは本当に上達が早いもので、娘はいつの間にかサクサクとピースをはめるようになり、私は全く歯が立たなくなっていました。

面積がずぬけて大きい北海道は別にしても、各県の形状には意外に特徴があるもので、目立つところを挙げてみますと、まず青森県と鹿児島県。向かい合った二つの半島の形が独特で、すぐにそれと分かります。能登半島が突き出た石川県も面白い形をしています。山形県はヒトが何か叫んでおり、秋田県はあくび中。静岡県はしっぽの大きい熱帯魚、京都府はブドウ。福井県の西側は細長くてギザギザしており、のこぎりの歯を連想してしまいます。

そしてわれらが大分県。全体がナスビのように見えなくもないですが、当時の娘いわく、半島の形が有名なキャラクターねずみの耳に似ていて分かりやすいとのこと。「そこはね、国の東と書いてくにさきと読むんだよ」などと教えたのも今は昔。すっかり口だけは一人前になった娘の姿を見るたびに、あの頃の素直なわが子はどこへ行ってしまったのかと、ぼやき節が止まりません。(日本銀行大分支店長)